

2020年合格認定医紹介

第8回認定医試験が行われ、小澤真希子先生、フリッツ吉川綾先生が新たに認定医となりました。今月は小澤真希子先生をご紹介します。

2020年度に行動診療科認定医に合格しました、小澤真希子と申します。ニュースレターに自己紹介の場を頂きましたので、認定医取得までの経緯を書かせていただきます。

動物行動学との出会いは、ちょうど大学で研究室を決める頃でした。私は当初内科学研究室を志望していました。ところが故森先生の動物行動学の授業を受け、「フェロモンって面白い！」と思い、動物行動学研究室に急遽志望を転向しました。森先生の授業力は素晴らしく、当時は私のように授業に魅了される学生がたくさんいたように思います。学部生の頃はマウスを使った研究に従事し、犬と猫の問題行動治療についてはちょっと覗き見る程度の関わりでした。この頃は自分がその道に進むとは思っておりませんでした。今思えばあの頃研究室に出入りする犬たちを愛でながらその行動について動物行動学の専門家の解説を日常的に聞いていたことが、私の動物の行動に対する興味を高め、観察する視点を養ってくれたのだと思います。本当に恵まれた環境でした。

卒後もすぐに問題行動治療を志したわけではありませんでした。実は最初は神経病に力を入れており、途中から「問題行動は神経病と同じく脳の疾患でありながらより不可解なもの」と遅ればせながら気づき、興味を持つようになったのでした。(つまりこの段階までは問題行動に対してほぼ無知でした。)臨床獣医師2-3年目のことです。

その後、出身研究室で研究生として問題行動治療を学びました。(当時東大で試験的に専科の研究生を受け入れてくれました。)問題行動治療は症例の行動の分析、飼い主とのやり取りの機敏など、教科書には書かれていない微妙なことが治療上大切になってきます。治療技能の修得には机上の勉強だけでなく実際の治療現場を経験することが不可欠だと思います。私は東大の研究生の他、南先生が当時教員をされていた酪農学園大学に1週間ほど見学に行かせていただくなどしました。

研究生を半年ほどした頃、今考えるとかなり重症な問題行動犬が勤務していた動物病院に来院したため、まだ未熟なまま問題行動治療の実践をスタートすることとなりました。幸いにも指導教員が武内先生、荒田先生、勤務先院長が内田恵子先生と強力なバックアップのもとでの治療スタートでしたが、それでもだいたい思い悩んだ日々でした。研究会の先生方の中には、患者がきちゃったし、他に簡単に回せないし…ということで止むなく治療にあたり、心細さを感じている方もいらっしゃると思います。今後は機会があればそのような皆さまのサポートに努め、今まで諸先輩方から受けてきた恩を返していきたいと思っています。(まだ自分がベテランとまでは思えていませんが。)これから研究会内でもっと初学者のサポート体制が進むといいと思っています。

認定医試験は、実は初回から受験していました。その間、博士課程進学や出産育児などで受験を見合わせたこともありましたが、計3回落ち4回目でようやく合格しました。途中、もう止めようかとも思いましたが(笑)恩師である森先生のことを思い出して受験を続けました。今認定医を目指して苦労されている先生方、負けずに頑張ってください！試験の大変さ、あとちょっとのところで落ちる無念さ、とてもよく分かります。アドバイスできることがあれば(研究会規定に問題のない範囲で)いたしますのでいつでもご相談ください。

この4月から一般診療を一旦終了し、問題行動専門としてのキャリアをスタートさせます。子育てとの両立をどうするか…問題行動専門診療のあり方とは…と手探り状態での新たなキャリアスタートですが、頑張りたいと思います！よろしく願います。



2021年総会時教育セミナー

第2部 症例検討会「常同障害診断・治療時に苦慮した点」



研究会ホームページにて動画配信が行われた 尾形庭子先生による2021年総会時教育セミナー第1部「常同障害診断におけるピットホール」に続き、2021年2月19日（金）、第2部である症例検討会がZoomを使用したオンラインにて開催されました。

【症例発表者】

○中野 あや（動物行動クリニックなかの）『複数病因の尾追い行動を呈した犬の1例』

○伊藤 綾（大正動物医療センター）『診断に苦慮した、自傷を伴う尾追い行動を主訴とした犬の1例』

【コメンテーター】水越美奈先生 藤井仁美先生

【司会】和田美帆先生

今回は症例発表をされた中野あや先生に、発表に際してのご準備や当日の様子を教えてくださいました。

総会時教育セミナーとしては、初のオンライン開催となった症例発表会、14時の開始時間前からZoom画面の「参加者マーク」横の数字はどんどん増え、緊張が高まる中で、和田先生の司会により症例検討会が始まりました。発表は事前に録画した15分ほどのビデオを流す形でしたが、「やっとここまで来た！」という気持ちでいっぱいでした。当日の参加者は約110人。東京に行かなくてもセミナーに参加できるオンラインセミナーの良さが数に現れていたのではないのでしょうか。

本セミナーの発表者募集は11月の末に始まりました。私自身は、発表者に手を挙げたものの「これが症例発表としてまとまるだろうか」と不安でいっぱいでした。それだけ診断に悩んだ症例でしたが、症状が改善して既に治療が終了していたために掘り下げ切らずに「まあいいか...」となっていた症例でもありました。おそらくこの曖昧な部分をブラッシュアップし、コメンテーターの先生とディスカッションすることで会員全体の学びに繋がるだろうと選んでいただいたのだと思います。12月下旬に発表者に決まり、年始は抄録作成でばっちりステイホーム、1月中旬に発表スライド作り、抄録の修正、実践教育委員の先生方とのオンライン打ち合わせ、予演会、スライドの修正...、と怒涛の忙しさの日々でしたが、この間、何度も教科書をめくり、尾形先生のセミナー動画を確認し、と本当に勉強になることばかりでした。和田先生、吉川先生にはご多忙の中で、抄録と発表スライドについて、「行動診療としての発表」という目線で細部までご指導を頂き、本当に感謝しかありません。1月末から発表動画の撮影を、これは各自でおこなったのですが、深夜、子供が寝静まった後にヘッドホンをつけて録音・撮影を行いました。1発で撮れば良かったのですが、発表時間が15分もあると、必ずどこかでスライドを送り間

違えたり言い詰まったり、上手くいったと思ったら息の音がメチャクチャ入っていたり（マイクが近すぎた）と何度も撮り直し...気づけば朝の4時を回っていました。ビデオ発表も良し悪しだなあ、と思った点ではありますが、元来アガリ症で学会の症例発表ではいつも声が震えてしまうので、やはりオンラインのありがたさを感じました。

症例発表のビデオが流れた後はディスカッションに移り、水越先生、藤井先生、尾形先生、武内先生に、これまでモヤモヤしていたことをたくさん教えていただくことができました。転位行動と常同行動の線引きの難しさ、海外の診療基準が全てではなく研究会ですり合わせをし続ける必要があること、常に新しい情報にアンテナを張っておくことの大切さ、などなど。伊藤先生のご発表後のディスカッションで、尾追い行動が関心を求めるためだけに発生したとは考えにくく、行動が最初に現れたきっかけには葛藤（転位行動）があるのではないかと、という水越先生のご指摘も非常に勉強になるものだったと思います。症例検討会を終えたあとに、友人の先生からも「これまで気になっていた部分がクリアになった」と感想をいただきました。症例発表の準備はとても大変でしたが、自分自身にとっての成長もあり、とても有意義な会だったと思います。

最後に、ご多忙の中で私たちに惜しみない指導とアドバイスを下さり、さらには初の教育セミナーのオンライン開催のためにご尽力くださった実践教育委員会の和田美帆先生をはじめ、本会を支えて下さった全ての先生方に心より感謝を申し上げます。



（中野 あや）

今回のコラムはアメリカのパデュー大学で行動診療をされている尾形先生にご執筆いただきました！ぜひご一読ください



このたびニュースレター用の投稿ということで、アメリカ便りのなものを書かせていただきます。ただコロナ禍で、こちらの大学の診療体制もすっかり変わってしまい現状を述べると「窮屈&不自由なルール内での診察」の話になってしまいますので、その話は今回は横において・・・一般的なアメリカにおける行動診療もやま話について、触れたいと思います。

子犬？成犬？

まずアメリカでは子犬や子猫より成犬、成猫をあえて求める人の数が一定数いることは少し日本の印象と違うかもしれません。特に犬に関しては「子犬の世話なんてトイレのしつけも含めてとても付き合いきれないわ。成犬の方がサイズも性格もわかっているから選びやすい」というのがその理由です。アメリカではシェルターから動物を譲り受ける人が多いのも、そのあたりと直結しているのでしょうかね。純血種でさえ「成犬を探したのに見つからなくて、仕方がないから子犬から飼ったのだけど予想通り手間がかかりすぎて、ブルーな気持ち」なんて言う人も少なくありません。そのため純血種の繁殖引退犬、ショーダック引退犬をブリーダーから譲り受けることも人気があります。私の周囲はフルタイムで仕事を持つヒトが多いので、よけいに「手間がかかる子犬」は好まれないのかもしれませんがね。

犬種

ここミッドウエストは土地が広いことで有名なので、飼っている犬も大型に人気があります。グレートデンは日常茶飯事、アイリッシュウルフハウンドも珍しくありません。小型犬ももちろんいますが、ここ数年増えているのが、スタンダードプードルとの雑種ですね。レトリバー系だけでなく、バーニーズマウンテンドッグやグレートデンなど様々な犬種とプードルの雑種というのにお目にかかります。大きさが違うだけで、日本のトイプードル雑種犬の流行と似た傾向なのでしょう。

大学病院

大学病院にはいろいろな診療科がありますが、看護師には診療科付きと処置室付きの2種類の職種があり、後者はそのときときに必要な仕事や科に派遣されます。しかしいずれにしろパデュー大学の良いところは看護師さんが総じて動物の扱いに優しいことだと思っています。獣医師はアメリカ以外からも州外からも来ていますが、看護師さんは大多数がここミッドウエストの地元出身者であることが影響しているのかもしれませんが。田舎なこの地域では大動物も含めて子供の頃から動物に慣れ親しんでいる看護師さんがとても多いからです。その結果取り立てて行動学に興味がなくても、また行動科の我々が特別なアドバイスをしなくても基本的に各処置室にはおやつがあり、動物への接し方は乱暴ではありません。対照的にドクターや学生は明らかに動物慣れしていないヒトや特に学生の場合、頭がいっぱいになってしまってうっかり乱暴に扱うヒトも少なくないだけにこの「いちいち見ていなくても看護師がいれば大丈夫」という安心感は非常に大きな物があります。

日本でも動物看護科をもつ大学が増え、国家資格制度がはじまるので、日本の看護師さんも同じように「動物に対する姿勢について安心して任せられる存在」なのであればもっと活用することで行動学の現場での浸透にグッと貢献してくれることでしょう。そしてまた、優秀な看護師さんが底上げしてくれるからこそ、行動学に関して言えば獣医師は獣医師にしかできない職務（診断をつけ治療方針を立てること、薬物療法についてもっと勉強することなど）に徹することができることでしょう。

薬物療法について

薬剤大国のアメリカは抗精神薬を使っているヒトの数が老若男女問わず大変多く、結果として薬の名前や知識をいくらか持っている飼い主さんが少なくありません。飼い主さん側から薬の開始や変更の希望が出ることも日常茶飯事なので、それに対してきっちり受け答えし、飼い主側にとっても納得のいく方針を立てる必要があります。一方サプリメントやCBDなど獣医師免許がなくても使用出来る物に関しては、通販で簡単に手に入るのですでに試されていることも多く、こと大学病院にくるケースは、「その結果、効果が感じられなかったので、薬を処方してほしい。」というやりとりになることが一般的です。

一般診療科での行動治療

現在アメリカには犬用に承認されていて入手可能な薬は4種類（以下商品名Clomicalm, Anipryl, Reconcile, Sileo）、処方食は犬用が4種類（以下商品名B/D, Calm, Neurocare, I/D stress）、猫用が2種類（以下商品名Calm, C/D multicare）あります。そのため学生にも行動学の興味に関わらず承認薬や処方食についての知識を持つことは、一般診療医の最低条件であるという方針で指導しています。実際最近では猫のストレス性尿マーキングは重症例を除き、かかりつけの病院で治療されることが一般的ですし、不安に関連する犬の問題行動の初期対応も一般病院が扱う範疇になりつつあります。特に雷や花火などの恐怖症に関しては診断が付けやすいこと、時期が限られることもありここ数年一般病院でも積極的に取り組まれるテーマの一つです。現在米国行動学専門医は約80名を超えましたが、アメリカ全土のペットの数で比較するとまだまだ少数派であり、コロナをきっかけに軽症例や緊急度の高い行動学のケースに対する一般病院での対応の必要性がますます認識されました。

現在コロナ禍で海外との往来が控えられていますが、ふたたび学会、見学など参加できる機会が生まれれば研究会の皆さんには積極的に参加してもらいたいと思います。特に学会会場では、同業者だけでなくいろいろな商品やテーマにも出会うことができますから、これまで日本国内の身の回りで考えてきたこととは違ったアイディアが生まれるかも知れませんよ。私も帰国時、日本のやり方を再訪するのはいつも刺激になっています。ではまたお会いできる機会を楽しみにしています。

(尾形 庭子)

新幹事のご紹介

今期より新たに幹事に参加される先生方をご紹介します。

①氏名(敬称略) ②所属 ③自己紹介

①茂木千恵
②ヤマザキ動物看護大学
③ヤマザキ動物看護大学動物臨床行動学研究室所属です。動物行動学の教鞭をとっています。附属病院等での行動診療を7年間行ってまいりました。宜しくお願い致します。

①入交眞巳
②東京農工大学
どうぶつの総合病院
③一時幹事をお休みしていましたが戻りました。学会のお役に立てればうれしいです。

①小澤真希子
②関内どうぶつクリニック
川畑動物病院
③認知機能不全症候群をはじめ高齢動物の問題行動治療に力を入れています。2歳児の子育てで毎日慌ただしく過ごしています。

①中野あや
②動物行動クリニックなかの
③神戸市で往診専門の行動診療科クリニックをおこなっています。社会の中での行動診療科の認知度を上げ、困っている動物、飼主、獣医師に情報が届くようになるように、微力ですがお手伝いさせて頂ければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

①新木美和
②動物病院ちいさい仲間・おおきい仲間
③はじめて幹事に応募させていただきました。行動診療も臨床の傍ら始めたばかりのひよっこです。これを機会にいろいろなことを勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。よろしく願いいたします。

①礒見優
②ALLONE動物病院
いぬ・ねこ行動クリニックMof
③神奈川県で勤務医をしています。ポストンテリア♀(5歳)と猫♀(16歳)と暮らしています。

①菊池亜都子
②ペット問題行動クリニックBLISS
東京大学附属動物医療センター
③初めての幹事参加になります。わからないことだらけで不安もありますが、ご指導よろしくお願い致します。

①室井尚子
②Jiu動物行動クリニック
③北海道帯広市で行動クリニックを開業して2年目になります。臨床獣医師や飼い主に正しい知識を持って動物と関わる楽しさを伝える技術を磨いていきたいと思っています。



2月19日に開催された
オンライン新旧幹事会



①堂山 有里
②バーニー動物病院 千林分院動物行動診療科
③行動診療歴は浅いですがいつも行動研究会の卒後教育セミナーや症例検討会で勉強させていただいておりました。微力ながら何かお役に立つことができましたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。



①石井綾乃
②相模原どうぶつ医療センター
松山ほうじょう動物クリニック
③学部は日本大学を卒業し、日獣大大学院在学+非常勤で一次診療に従事し卒業後は、常勤で一次臨床に従事しています。首都圏には行動診療を勉強している獣医師が多いのに対して、近隣に行動診療を提供する病院がない地域が国内にはまだ数多く存在する現状を解決するためオンラインが重要だと考えています。よろしくお願いいたします。

①鵜海敦士
②ぎふ動物行動クリニック
③日本における行動診療科の普及に少しでも寄与したく、行動研究会に所属させていただいております。自身はNPO法人でガバナンス管理と会計事務を行っている経験から、事務局でお手伝いできることが多いかと感じ、志願させていただきました。



3年間どうぞよろしくお願いいたします！

事務局からのお知らせ

総会報告

第7回日本獣医動物行動研究会総会が2021年2月19（金）午後3時半時よりzoom開催されました。出席者は正会員52名委任状103名提出により、正会員301名の過半数を満了し総会成立となりました。議題は下記の6号議案でした。

- 1号議案 2020年次事業報告
- 2号議案 2020年次決算報告
- 3号議案 会則改定
- 4号議案 監査報告
- 5号議案 2021年次事業計画（案）
- 6号議案 2021年次予算（案）

議案はすべて可決され、総会資料、議事録をホームページに掲載しております。会員の皆様はご一読をお願い致します。

事務局から

緊急事態宣言さなかの総会開催はzoomで開催され無事終了を致しました。これまでの本研究会ではWebによる症例検討会、執行委員会など日常のことでしたが、教育セミナーに100名以上の会員参加がありこれまで足を運ぶのが難しかった先生にもご参加いただけたことはニューノーマルの良い点であったと感じております。懇親会もzoom開催でしたが、トピックごとの活発な意見交換があり、これまでとは違った面白さがありました。事務局は新しいメンバーが加わりこれからの3年をかけてより良いシステム構築を進めて参ります。対面、Web双方の良さを取り入れながら研究会が更なる情報発信が出来るよう務めますのでよろしくお願いいたします。

会費納入に関しまして、年会費納入のお知らせを5月末にお送りし、納入時期を6月とさせていただいておりましたが、総会開催方法の変更に伴いすべて銀行振込となりました。各種セミナー参加費用も銀行振込となっております。振込詳細のお知らせは正式な会計領収履歴として使用できますので、大変申し訳ございませんが、今後別途領収書の発行をしないことになりました。準備が整い次第ホームページにもその旨掲載させていただく予定です。

何卒ご理解いただきますようお願い致します。

※メーリングリストへの返信について・メーリングリストにて様々なお知らせをお送りしております。個人的な返信に関しましては事務局にお知らせいただけますと幸いです。

事務局内田メールアドレス < vb@vbm.jp >

(内田 恵子)